

入選

助けたり 助けられたり

福岡県 篠山小学校
四年 古田 姫菜

お母さんの新型コロナウイルスワクチンの接種に、いっしょに病院に行きました。病院には、ワクチン接種のために、たくさんの方がきていました。

待合室に、車いすにのったおじいちゃんをおしているおばあちゃんがいました。しばらくして、車いすのおじいちゃんのワクチン接種の順番がきました。しかし、待合室にならべられた、たくさんの方のいすのせいで、しんさつ室まで行けません。

おばあちゃんは、左右に何度も車いすを細かく動かして、なんとか通ろうとしています、通ることができません。

わたしは、急いでいすをどけに行きました。いすは、大きくて重かったです。一つ動かすのもたいへんです。いすを動かしていると、知らない男の人があらわれて、いっしょにいすをどけてくれました。

わたしは、思ってもみなかったことに、おどろきました。でも、とてもうれしかったです。さっきまで、とても重かったいすが、少し軽くなったような気がしました。二人で、いすをどけました。男の人が手伝ってくれたおかげで、車いすが通れるスペースが早くできました。

車いすのおじいちゃんとおばあちゃんは、わたしたちに何度もお礼を言うと、しんさつ室に入っていきました。おじいちゃんとおばあちゃんはマスクをしていて、表情があまり見えませんが、わたしにはよろこんでくれているように見えました。

わたしが、男の人に、いすをどけるのを手伝ってもらったお礼を言おうとしたら、男の方のワクチン接種の順番がきて、しんさつ室に入っていってしまいました。助けてもらったのに、ありがとうが言えなくて、とても心のこりです。

知らない人が、わたしのこまっているようすを見て、手助けに来てくれたことが、とてもうれしかったです。車いすのおじいちゃんとおばあちゃんも、わたしと同じ気持ちだったのかなと思いました。

人は、助けたり、助けられたりしながら生活をしているのだなと思い、なんだかとても心強く感じました。

これからもわたしは、はずかしがらずに勇気を出して、小さな親切をたくさんしていこうと思います。